

論文要約

氏名：山口太郎

論文題目：日本におけるアクセラレーターのスタートアップ支援効果—混合研究法によるプロセスの実証分析—

本研究は、アクセラレーターによるスタートアップの成長加速効果について、日本の文脈で探求することを目的としている。米国でアクセラレーターが誕生して以来、その効果が注目され、欧米を中心にこの分野の研究が活発に行われてきた。しかし、研究結果にはばらつきがあり、アクセラレーターの効果やそのメカニズムはまだ十分に理解されていないのが現状である。特に日本においては、アクセラレーター研究は始まったばかりであり、その数も限られている。米国との起業環境や国民の起業に対する意識の違いを考慮すると、米国の研究結果をそのまま日本に適用することには疑問が残る。この背景を踏まえ、本研究の中心的な Research Question は、「日本においても、米国と同様に、アクセラレーターはスタートアップの成長を加速させることができるのか?」である。この問いに答えを出すために、日本のアクセラレーターを対象として、混合研究法による分析を行った。

まず、定量研究によって、アクセラレーターの支援効果と選抜効果に関する分析を行った。アクセラレーターは、専門的なレクチャーやメンタリング、ネットワーキングの機会の提供といった支援を行い、その結果、成長が加速されるとされるが、アクセラレーターは成長可能性の高いスタートアップを選抜しており、アクセラレーターの効果は、支援によるものではなく選抜によるものである可能性が示唆される。そこで、選択バイアスを考慮した分析を行い、アクセラレーター参加・非参加企業間でのパフォーマンスの差を検証した結果、アクセラレーターの効果が成長ポテンシャルの高いスタートアップを選抜した結果である可能性が示唆された。

次に、アクセラレーターの参加時期やスタートアップのタイプとそのパフォーマンスとの関連についての定量分析を行い、Resource Based View に基づきその結果を解釈した。先行研究の結果のばらつきはスタートアップのコンテキストと違いによるものと考え、アクセラレーターの支援が「いつ」や「誰に」効果的かについて分析した。その結果、設立から早い時期にアクセラレーターに参加するスタートアップは、より大きな成長加速効果を受けることが明らかになった。また、研究開発型スタートアップに対してもアクセラレーターの支援効果がある可能性が示された。

そして、2つの定量研究の結果を受け、定性分析によりアクセラレーターによるスタートアップの成長加速プロセスを明らかにする。定量研究から日本のアクセラレーターにおいても、スタートアップの成長に対する支援効果があることが示されたが、どのようなメカニズムで支援効果が発揮されているのかは分からない。そこで、アクセラレーター、スタートアップ、ベンチャーキャピタルにインタビューを実施し、質的データを分析した。その結果、「正統性」というキーワードが浮かび上がり、アクセラレーターによる正統性の付与がスタートアップの成長加速に寄与していることが明らかになった。正統性の付与は、創業チームや研究者に対して行われ、新規性の不利益を克服し、資金調達等、経営資源の獲得を進めることができることが示された。

本研究の貢献としては、日本のアクセラレーターを対象に、混合研究法を用いてアクセラレーターの成長加速効果がスタートアップに対する正統性の付与を通じて実現されるプロセスを明らかにした点が挙げられる。成長加速のメカニズムに関する研究が少ない中で、スタートアップに対する正統性の付与が成長加速の源泉である可能性を示したことは、重要な意義を持つ。

理論的な貢献としては、スタートアップの成長に関する新たな視点を RBV に基づき提供し、VRIO 枠組みを用いてアクセラレーターの支援による新たな洞察を得た。また、アクセラレーターの支援が創業チームや研究者のアイデンティティの変容にどのように影響するかを分析し、正統性のダイアドにおける変容プロセスを明らかにした。アクセラレーターを正統性の源泉として位置付け、スタートアップへの正統性付与を中心に分析し、異なる聴衆による正統性のレベルの違いを明らかにした点も注目に値する。

実務的な貢献は、アクセラレーターが創業チームや研究者に正統性を付与し、これが投資家からの資金調達や企業との連携機会の拡大等、成長加速につながるプロセスを解明したことであり、これにより、日本のアクセラレーターの運営や環境に関して、より効果的な方策を提案することが可能になった。

日本と米国では、起業環境や文化に大きな違いがあるため、米国とは異なる日本のアクセラレーターの成長加速プロセスを明らかにし、日本独自の環境に合わせたアクセラレーターのあり方についての考察は、今後の研究を促進する上で大きな貢献を果たしたと考えられる。